

主体美術

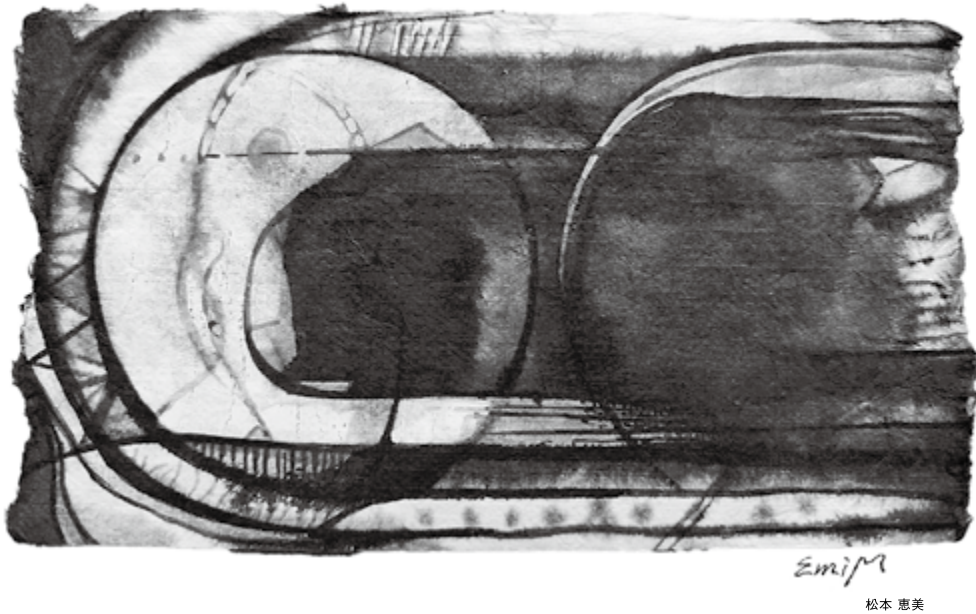
SHUTAI-BIJYUTSU

主体美術協会は、1964年9月に結成されました。
私たちは作家一人一人が創作を自由に発表できる場を確保し、美術家の集団として積極的に活動していきたいと思えます。
私たちは世界的な視野に立って、豊かな人間性を培いつつ、現実の日本に深く根を下ろした生新な芸術を創造していくことを期しております。

発行：主体美術協会事務局
〒144-0047
大田区萩中3-14-8
山崎 弘方 TEL / FAX 03(3742)5182

2026.3
No.117
CONTENTS

- 1p 巻頭言 ……榎本香菜子
- 2p 第60回記念主体展審査について ……吉田 正
- 3p 第60回記念主体展陳列について ……長沢 晋一
第60回記念主体展研究部から ……井上 樹里
- 4p 巡回展報告(名古屋) ……三浦 洋次
- 5p 第60回記念主体展入賞者紹介
新会員展・会員小作品展 報告 ……返町 勝治
- 6-7p 2025年新会員紹介
Jimmy-Atget-Ohashi
塚本 照子 土川 祐子
東堤 友美 日比野美穂
古橋しげ美 宮内 和
- 8p 第60回記念主体展 企画展示
没後20周年「大野五郎展」報告
……………返町 勝治
- ART WAVE
- 9p ●アトリエ訪問 vol.15
松本 恵美さん(東京都)
……………文/有馬 久二
- 10p ●フォトエッセイ
檀原 恵子(東京都)
- 11p ●各地の美術展から
「森田六男氏 遺作展」
コート・ギャラリー国立
……………桑原 雄一
- 12p インフォメーション
展覧会記録・編集後記・その他



松本 恵美

「主体美術はダンバース・ナンバー」

榎本 香菜子

まだ出品し始めて間もない頃だったつまり半世紀以上前。主体展会場で絵を見ていたら「僕の絵どう思います?」とお声をかけられた。とても良い絵だったので「会員の作品みたいですわね」なんて気楽に答えてしまったら、創立会員の西村保史郎さんだった。もう赤っ恥である。20歳そこそこ、出品者と会員の区別などわかるはずもなく、私のような人間に作品の感想を求めた事自体が不思議だった。しかし、出だしからこんな調子だったので、世間を知らず、この自由な空気が私の中でスタンダードになってしまった感がある。会員になった年に研究部となり末松正樹さん、松井豊さんのインタビューに同伴。「印刷に間に合わないよ」と司修さんから怒りの電話がきたのもその頃。パソコンもない時代、オープンリールのレコーダーを必死に聞きながら7時間でテープ起こしをし、清書して新宿にすっ飛んで行ったものだった。その後、35周年記念企画「北海道展」があった。座談会記録の為にレコーダーを持参し向かった。中城事務所としては、北海道展は北海道主体でやってもらいましょうというスタンスだったので、私の仕事はテープをまわすだけね、という意識。当時、札幌に友人がいて車で展覧会場に迎えに来てくれ見終えて会場を早々に去ってしまった。翌日、顔を合わせた小谷博貞さんから「君は事務局員だろ」の冷やかな一言。完璧に無視された。小谷さんは座談会の段取りを綿密に立て、私とも打ち合わせをするおつもりだったらしい。帰りの飛行機はガックリと頭うなだれ、テープレコーダーが妙に重く感じられた。帰宅して詫言状を書き連発で投函。ところが「ん?」。はたと切手代が足りないことに気が付き青ざめた。郵便局に電話し追跡。ギリギリセーフ、小谷さんのお住まい地域の郵便局にまだあり、「詫言状なのに受取人に不足分を支払っていただくわけにはいかないのです」と訴えた。優しい局員さんの判断で不足分切手を貼り配達して下さった。安堵と感謝でその郵便局に礼状とともにビール券を送った。ともかくド迫力の司さん、小谷さんに鍛えられ今の私がある。

長い間、研究部にに関わり、都美術館講堂での講演会、上映会など独断で

企画してきた。役を離れ、時を経て、色々わかってきたことがある。交渉相手とはコネ無し、面識無し。私を突き動かしたのは、青春時代から育てていただいた恩と、その恩に報いたいという一念だったのかもしれない。安曇野ちひろ美術館まで石内都さんの講演交渉に行ったとき、「何で私が公募展で講演しなきゃならないのよ」といった態度でなかなか手ごわかった。いささか緊張し、池袋モンパルナスを赤羽モンパルナスなんて言い間違いたけれど、一歩も引かずに何とか交渉できたのは、おこがましくも主体美術と石内さんのお仕事には通じるものがある、という自負、確信だった。その骨格を築きあげたのは今現在の私達ではない。

昨年は60周年記念誌編集のために過去の冊子全てに目を通したが、とりわけ森芳雄氏の言葉の鋭さと厳しさに襟をただす思いがした。また、冊子の反響は外部の方々から大きく、主体の精神性に触れている内容が多かった。森氏は「ヒューマニズムなんて簡単にいうな。人間性なんてこと信じられるか」とおっしゃっていたらしい。深い闇と絶望とその先の光を求めていた作家ならではのお言葉だ。21世紀は過去の大戦から学び平和な時代が訪れるものと思っていた。ところが、いきなり9.11で幕開け。自ら血を見ることなく権力者の座に就く者が恐ろしい。軍国教育を受けても決して魂を売らなかった主体の先輩方を誇りに思う。「主体的に」と唱えれば唱えられるほどに主体性から遠く日本の現状を見るにつれ、主体美術協会という変わった名称は案外、日本の弱点を突いているようにも思う。趣旨文に豊かな人間性を培いつつ、とあるのは、描くことと生きることが同一線上にある会の姿勢がよく表れている。

最後に主体美術会員の人数はまさにダンバース・ナンバー。英国の人類学者ダンバーが研究の結果、名前と顔が一致し安定した人間関係を維持できる人数は150人までと提唱している。仲良しクラブという意味ではなく、これからも互いに信頼し、民主的に自由に描いていける空気を損ねることなく、時代が変わっても主体の精神が受け継がれていくことを切に望む。

第60回記念主体展報告



▲審査最終日集合写真



▲9月2日に開催されたギャラリートーク



▲レセプション(都美術館内レストラン)



▲審査の様子



▲審査の様子



▲作品撮影

第60回記念主体展審査について

事務局展覧会部 吉田 正

今回で第60回を迎える主体展の審査は、8月23日(土)から25日(月)までの3日間、東京都美術館地下3階の審査室にて行われた。審査には各日とも70名から80名の会員が参加し、例年通り応募作品を前にして真摯に議論が交わされた。審査を円滑かつ公正に進めるため、審査開始時の確認が重要であるとの共通認識のもと、冒頭では事務局責任者の山崎氏より、審査方針および内規について丁寧な確認が行われた。進行についても、審査の流れが定まるまでは慎重に進められたため、例年よりややゆっくりとしたスタートとなったが、その結果、方針の逸脱や混乱はなく、落ち着いた雰囲気の中で審査を始めることができた。

当初は発言する会員が限られていたが、「せっかく審査に参加しているのだから、遠慮せず意見を出してほしい」という藤本氏の一言をきっかけに空気が一変した。それまで静観していた会員からも次々と声が上がリ、審査室には活発な議論が広がっていった。主体展の審査は、単なる多数決に決して頼らない。作品の持つ力や表現の独自性、作家の精神や姿勢に加え、議論は画像生成AI、戦争、環境問題といった時代のリアリティ、さらにはアートとの境界線にまで及び、多面的な視点から会員同士が率直に意見を交わした。このように互いの視点をぶつけ合うことで作品への理解がより深まっていく。その緊張感こそが、主体美術ならではの審査の特徴であると感じられた。

応募者の減少が懸念されていたが、本年度は前回よりも僅かではあるものの応募者が増加した。特に若い作家や初出品者の意欲的な挑戦が目立

ち、多様な表現が審査全体にも活気をもたらした。また、今回の審査では小品の応募が目立っていたのも特徴的であった。作家を取り巻く現代の制作環境や発表状況を鑑みれば自然な傾向として理解できるが、大作が多く並ぶ中では視線の切り替えも煩雑になる面もあった。小品については近くで取り囲んで鑑賞し、時には手に取って確認する会員も見られ、作品保護の面で不安を覚える場面もあった。しかし、作品の大小にかかわらず、表現の質そのものに真摯に向き合い、一点一点に時間をかけて丁寧に議論を重ねていく姿勢は、主体美術が長年大切にしてきた審査の在り方であり、今回も変わることはなかった。

3日間の審査を通して、入選者95名(うち3点入選1名、2点入選9名、初入選23名、佳作作家13名、秀作作家7名、新人賞2名)が決定した。佳作作家および秀作作家の選出にあたっては、事前に情報提供の在り方についても再度確認を行い、単なる作品評価にとどまらず、作家としての今後への期待や、これまでの取り組みの積み重ねも含めて総合的に審査された。また8月31日(日)には作品陳列後に投票が行われ、同日、赤羽会館で開催された総会の承認を経て、新たに7名が会員に推挙された。こうした審査姿勢により、経験豊かな会員と新たな作家層が自然に交わり、主体美術として世代や表現の幅が確実に広がっていることを実感する。選出された佳作作家の今後の飛躍を期待するとともに、新たに会員となった仲間には、主体美術の一員として展覧会を支える責任と喜びを共有してほしい。

(2025年12月)

第60回記念主体展陳列について

展覧会委員 長沢 晋一

任期2年目となる展覧会委員の返町勝治、續橋 守、長沢晋一、福田玲子、藤田俊哉、藤本 卓、山本靖久に加え責任者山崎 弘、会計黒川 洋の9名でオンラインを含め4度の会議を経て展示に関する骨子を検討した。議題として従来の会場レイアウトに加え2025年度は第60回記念展ということでの企画展示「大野五郎没後20年」の確認作業、また前年度よりの課題であった審査マニュアルの検討など密度の高い会議となった。

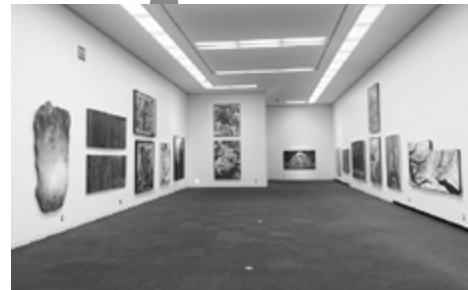
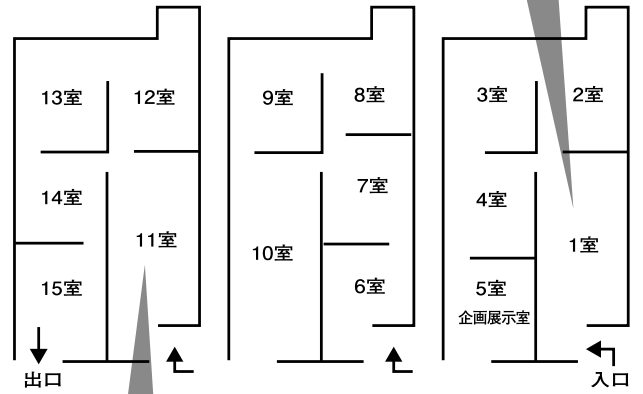
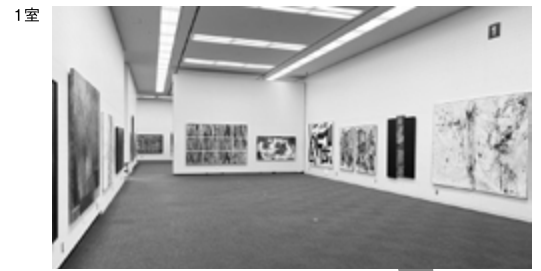
展示方針として、**第1棟2棟を会員、第3棟を一般入選者の展示とする会員と一般の区別展示**、**ゆるやかな傾向別展示**、**極力前年度と同部屋にならない作品配置**、以上を踏襲する。具体的な部屋割として、1～3室を抽象、4室具象、5室記念企画展示、第2棟の6～10室まで具象、1室と10室に規格外作品を展示。一般入選作品11～15室の中で、11室に秀作作品など受賞作を集中展示、15室は主に抽象とした。

8月22日に会員作品の展示計画用写真撮影を行う。この作業は24日に行う50分の1会場平面スケール上の配置に使うためと共に、展覧会委員がほぼ全作品に目を通し作品のイメージを焼き付けることや、輸送中に起こる作品の傷などの有無の確認作業ともなる。

8月31日の展示作業では、計画図通りに置かれた作品を第1室から順次委員全員で協議しながら修正を行った。4室から企画展示室への流れは、壁を設け企画室に独立感を持たせることを現場で決めた。また、小さな入選作品をどの様に扱ったら違和感なく光を当てられるか、最後の15室をどの様に締めくくかなど、前年の反省も含め進めていった。

例年のことではあるが、作品の間隔や絵面による配置の変更は必要不可欠な作業である。会場効果を高めること、個々の作品が輝くことを協議しながら合意点をみだし配置していった。限られた時間ではあるが無事終了することが出来た。22日の搬入から31日の展示終了までのバックヤードは、日美の方々と会員諸氏の協力と熱意の賜であると感じます。

9月2日からの展覧会では企画展示も含め概ね好評であったとの報告をいただき安堵するところです。その様な中でも取り付けたキャプションに反りや位置の不統一などがあり、今後の課題となる。より良い展示、常に新しい主体展において会員の皆さんの知恵が集まることを願います。(2025年12月)



第60回記念主体展 研究部から

研究部 井上 樹里

本年度は企画展トーク・イベント実施の為、アーティスト・トークは開催しませんでした。初日の9月2日に会場研究会を開催、延べ82名の出品者に参加いただいた。平日にもかかわらず昨年よりも多くの出品者が参加されたことは、60回記念展に会員だけでなく出品者も想いを馳せて参加されたように受け止めた。

会場研究会は、会への理解を広める最大の機会であり、出品者と対面して作品について語り合えるコミュニティを生み出す場であることから、今後は初日だけでなくそうした機会を増やせるように検討したい。

また本展では新たな入場者層の獲得の為、Xリポストキャンペーンを実施した。主体展公式Xの本展告知記事をリポストした画面を見せると入場無料とした。公式Instagram、facebookでは応募期間から会期中まで頻回に稼働させた結果、多様な世代にアプローチできるようになってきた。

公式YouTubeでは会場風景を撮影した主体展ぶらぶら鑑賞を継続して撮影、公開並びに巡回展や地域展においても現場にいる会員諸氏の協力のものと写真を提供いただき、YouTubeで公開した。

今後も会の活動を広められる利用方法を模索したい。

会場イベントの運営にご協力いただいた会員諸氏、ご参加くださった出品者の皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。(2025年12月)



YouTube動画【第60回記念主体展ぶらぶら鑑賞】のご案内
チャンネル登録をお願いします! 以下のフォローもお願いします!
X (旧ツイッター) <https://www.twitter.com/shutaiten>
フェイスブック <https://www.facebook.com/shutaiten>
インスタグラム <https://www.instagram.com/shutaiten>

主体美術協会チャンネル
上のキーワード検索、または右のQRをスマホで読み込んでください。

巡回展報告

名古屋展

事務局 三浦 洋次

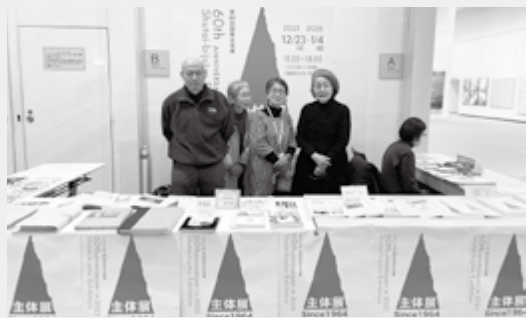
第60回主体展名古屋巡回展は12月23日(火)から1月4日(日)まで愛知県美術館ギャラリー(ABCD室)で開催しました。(12月28日～1月3日は休館日)

総展示数は144点、入場者数は999名でした。開催時期が年末年始という事もあり、昨年と比較して入場者が減少したことはやむを得ない事と思います。会期は主体展と同じ時期に開催された他の美術展は年末で終了しましたが主体展は年始1月4日まで会期を伸ばしました。

年始にも関わらずたくさんの方々に来場頂きましたのでこの事は成功だったと思います。(因みに美術館使用料は年末で終了しても同額です)

また、60回記念展の企画展として創立会員である大野五郎氏の作品を4点展示しました。関係資料などを色々とお借りする事ができ、充実した展覧会になったと思います。お世話になりました方々に厚く御礼申し上げます。

搬入日には、関東、関西方面から10名に展示の応援に来ていただき、ありがとうございました。お陰様で例年よりも早い時間に展示を終えることが出来ました。合わせてお礼申し上げます。展示終了後には展示に応援して頂いた方々と中部のメンバーと懇親会をもちまして楽しい時間を共有出来たと思います。中部の2名の新会員紹介も行われ、これからの活躍が大いに期待されます。搬出は年始早々1月



名古屋展会場風景



5日(月)に行われ無事に展覧会を終了する事が出来ました。これでやっと緊張感から解放され、正月気分になりました。本年度も充実した主体美術中部になればと思っています。よろしくお祈りいたします。

(2026年1月)

第60回記念主体展 会場スナップ

企画展トーク(9月2日)



会場研究会(9月2日)



レセプション 受賞者紹介(9月2日)



クッキー会(9月14日)



第60回記念主体展 受賞者

新会員 7名

Jimmy-Atget-Ohashi (東京都)	東堤 友美 (東京都)	宮内 和 (東京都)
塚本 照子 (愛知県)	日比野美穂 (三重県)	
土川 祐子 (千葉県)	古橋しげ美 (静岡県)	

秀作作家 7名

Jimmy-Atget-Ohashi (東京都)	東堤 友美 (東京都)	宮内 和 (東京都)
塚本 照子 (愛知県)	日比野美穂 (三重県)	
土川 祐子 (千葉県)	古橋しげ美 (静岡県)	

佳作作家 13名

喜々津宏恵 (東京都)	津田テリ一直美 (東京都)	矢野 文子 (大阪府)
幸坂裕美子 (茨城県)	友野 愉恵 (千葉県)	山口 泰史 (愛知県)
児玉くみこ (東京都)	箱崎 理恵 (三重県)	渡辺 怜志 (東京都) 〈新人賞〉
佐竹 照代 (愛知県)	堀江 雅子 (千葉県)	
TARO (東京都)	森田美乃里 (神奈川県) 〈新人賞〉	

第60回記念「主体展」新会員展と会員小品展 報告

第60回記念「主体展」新会員展と会員小品展

2026 2.5 THU - 10 TUE
HILTOPIA ART SQUARE (Shinjuku, Tokyo)

2025年開催の第60回記念「主体展」において、主体美術協会の会員となった5名の展示と会員有志による小品展です。

〔展示室 A・B〕新会員展 塚本 照子 土川 祐子 東堤 友美 古橋しげ美 宮内 和	〔展示室 C〕会員小品展 有馬 久二 内田結美子 榎本香葉子 大友 恵子 大西 佐頼 岡本裕介 落合梨乃 小野由紀子 加藤紀久子 金沢 綾子	川端みち子 黒川 洋 桑原 雄一 齋藤典久 佐藤善勇 鈴木 遊 逸町勝治 竹内小夜子 田中 郁子 田中 和枝	楳橋 守 戸田 礼子 中川奈智子 長沢晋一 中嶋 修 新野安紀子 西森聡子 長谷川好美 原田 文子 日向由美子	平田 誠 藤木もとひろ 福田 玲子 前川アキ 前山陽子 松尾陽子 松本 恵美 水谷 幸子 宮本 圭子 森脇 ヒデ	山崎 清子 山崎 弘 山田加代子 山田 礼二 山本 靖久 結城 智子 吉田 正 渡辺 良一
---	--	---	--	---	--



◀新会員展(A室・B室)



会員小品展(C室)▶

2026年2月5日(木)から10日(火)まで、ヒルトピアアートスクエア(新宿)において標記の展覧会が開催されました。2019年から始まったこの企画は今回で6回目になります。

前年11月後半に会期が決まったため、11月30日の例会で開催の予告をすることが出来ました。12月に入って参加募集をした結果、新会員展に5名、会員小品展に48名の参加が決まりました。

新会員展は会場のA室とB室を繋げてひとつの部屋にし、大小合わせて計20点の個性豊かな作品が並びました。壁面に余裕があったので、ゆとりを持って展示することが出来、都美館での本展に並んだ作品もより良く見えるとの声があり、作家一人一人の作品世界を堪能することが出来ました。

会員小品展はC室を使用し、4号以下の作品を48点展示しました。毎年本展に展示される大作とは味わいの違う表現の作品も多く、作家によっては意外な発見もあり新鮮な雰囲気を感じました。

会場は東京都庁にほど近い「ホテル・ヒルトン東京」の地下1階ショッピングアーケード内にあり、新宿駅からは地下通路でつながり、又新宿駅西口からヒルトン東京行きの無料シャトルバスを利用することも出来ましたが、新宿駅が工事中でバス乗り場が地下広場に移動したため戸惑う方もおられました。週末に寒波が襲来して積雪があり集客に影響が出たのは残念でしたが、ホテルの宿泊客なのか海外の観客も目につきました。

最終日には搬出作業を終えた後に会場内でささやかに打ち上げを行うことが出来ました。

暮れから正月にかけての何かと気ぜわしい中で案内はがき、ポスター、キャプション、デジタルサイネージ用データの作成に、また会期中午前午後各2人ずつの受付当番、更に搬入時の宅急便開梱や搬出時の梱包作業に大勢の会員の協力があり充実した展覧会が出来ました。
(返町勝治)

2025 NEW MEMBER

新会員紹介

第60回記念主体展にて会員に推挙された方のプロフィールです。今回は7名の新会員が誕生しました。おめでとうございます。

まず、自作について語っていただき、会員になってやりたいこと、抱負を語っていただきました。

皆さん、今後ともよろしくお祈りします。

(五十音順・敬称略)



第11室

Jimmy-Atget-Ohashi (ジミー・アジェ・オオハシ)



「シャメル-I」
P100



■生年月日

1949年3月25日

■出身地

群馬県前橋市

■制作に使う主な素材

油絵具中心

■自作について

絵を描くことは唯々一生不断のざんげである。制作は「密室の祈り」である。ただ描けるだけでうれしい。

■会員になってやりたいこと

年金生活のため、年会費の捻出が悩みの種である。

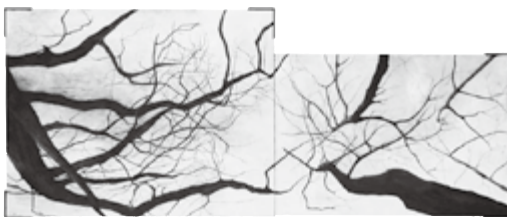
塚本 照子 (つかもと とるこ)

■出身地

愛知県

■制作に使う主な素材

アクリル・パステル



「回想」
113×277cm

■自作について

自然と人との関係性は、共に生きている「共存」であり、身近にその存在も感じることが出来る。このことが絵を描くテーマになっています。ただ風景を再現するのではなくそこで感じた何かを絵に描くことを目指してきましたが、これからも自然界の様々な世界に感動できる自分でありたいと思います。

■会員になってやりたいこと

今までの絵画表現では行き詰まりを感じ、まよいもあり、思うようにならない自分がいました。しかし、それも話を聞いてくれる人がいて、意見を言い合う中でアドバイスにつながっていたように思います。主体展の会場に絵が並び、その中に自分の絵があることは今後も絵を描く私にとって自信をもって取り組んでいくことにつながっていくと思います。

土川 祐子 (つちかわ ゆうこ)



「舞い降りて」
S100



■出身地

広島県

■制作に使う主な素材

アクリル

■自作について

私は制作において、現実の風景を思わせる空間と、そこに現れる人物を通して、時間や感覚を探っています。見慣れた世界の中に、非現実がそっと入り込む瞬間を描くことを大切にしています。特定の世界観に導くのではなく、見る人がそれぞれの物語を思い描きながら、画面の中を自由に行き来してもらえたらと思っています。

■会員になってやりたいこと

主体美術協会の一員として、制作を続けながら、多様な表現や考え方に触れていきたいと考えています。作品を通して他の会員の方々と意見を交わすことで、自身の視野を広げ、表現をより深めていくことが目標です。また、展示や活動を通じて、絵画の可能性を探りながら、協会の活動にも少しずつ関わっていかれたらと思っています。

東堤 友美 (ひがしづつみ ゆみ)

■出身地

兵庫県

■制作に使う主な素材

アクリル絵の具



■自作について

部屋という私的な空間に生まれる安心感と、そこに入り込む孤独や焦りといった相反する感情に関心をもち、制作を行っています。社会的事象が絶え間なく更新されるなかで、時間の流れをどのように実感しているのかを、自身の感覚を手がかりに探っています。外界の急激な変化と、室内で少しずつ蓄積される記憶や、当時の感情との間に生じる違和感に目を向け、個人の時間感覚や内面を、身近な経験から表現できればと考えています。

■会員になってやりたいこと

これからも絵を楽しみながら、日々の制作に向き合っていきたいと考えています。会員となり、気持ちを新たにしております。まだ学ぶことばかりではありますが、制作を通して多くのことを勉強させていただきながら、自身の表現を少しずつ深めていければと思っています。



「思い出402 Cervato」
91×233.4cm

日比野 美穂 (ひびのみほ)

■出身地

愛知県名古屋市

■制作に使う主な素材

アクリル、寒冷紗、板



■自作について

以前は人の形や表面の美しさに魅かれ描いていましたが、今は人の内面、感情など、目に見えないものを描きたいと思い制作しています。「幸せ」「楽しい」などの明るい感情ではなく、迷いや悩み、ネガティブな感情が揺れ動き、その中で見出す小さな喜びなどが作品の中で表現できたらいいと考えています。そんな感情の不安定さを変形の支持体に描くことで、より表現の幅を広げたいと思っています。

■会員になってやりたいこと

自分をとりまく環境が変化する中で、絵を描き続けることの大変さを実感した約20年でした。これからも変化し続けながらも、作品と向き合い、より自分自身が納得する作品を作っていきたいと思っています。



「流れ着いた場所」
200×130cm

古橋 しげ美 (ふるはししげみ)

■出身地

千葉県

■制作に使う主な素材

油絵具



■自作について

トラと鷹を描いていますが、あまりに被写体が派手すぎて正直気恥ずかしい感覚がありました。それでもトラは単独行動で、母親は子育てに愛情深く、生態が類似している鷹にも自分を重ね合わせ憧れました。人は弱いものです。窮地に陥った時、声を上げ孤立を恐れない精神力をもちたいと思っているので、彼らの真っ直ぐな眼光、毅然とした佇まいは描きたい対象になってます。

■会員になってやりたいこと

会員になることは意識していませんでしたので、今だに緊張しております。これからは会員の皆様のお手伝いができるように努力し、自分自身も具象画に独創性を秘めた作品を追求しようと思います。



「空へ羽搏く」
F100

宮内 和 (みやうち かず)

■出身地

北海道

■制作に使う主な素材

油絵具



■自作について

以前は奈良の風景や静物など具体的なモチーフを描いていました。最近は自己の中にあるものを追求しています。特に北海道の晩秋から初冬の静けさや厳しさを意識して描いていますが、表現することの難しさを感じています。色彩のバランスを考えている瞬間が好きで、新たな感覚を常に持ち続けていきたいです。

■会員になってやりたいこと

初出品からの数年間描くことに迷い、5年ほど出品をやめて自分の絵と向き合ってきました。2023年から再び出品させてもらい、今回、会員に迎えていただき緊張感で一杯です。

これから皆さまとの交流を通して学びながら自分の表現を発展させていきたいと思っています。



「夕景の刻(Ⅱ)」 F100

没後20周年 『大野五郎展』

57回展の後、展覧会委員会で60回展の企画について話し合い、主体展の創立から常に中心作家の一人として終生現役で旺盛な作家活動を行い、2006年に96歳で亡くなられた大野五郎氏を回顧する「大野五郎没後20年展」の構想が持ち上がりました。

例会での説明を経てから大野作品を多数所蔵している東京都北区から作品をお借りしたいと考え、管理する担当部門との折衝を始めました。その後事務手続きが順調に進み、大小12点の油彩作品と素描2点をお借りすることができ、他に3人の個人所蔵作品から6点をお借りし合計20点の展示が決まりました。

第60回記念主体展の第5室を企画展示室とし、作品の他に陳列ケース2台に画集や関連書籍、資料写真等を展示しました。

会期初日の9月2日には会場内でギャラリートークを開催し、佐藤善勇、返町勝治、水村喜一郎の三氏が約70人の聴衆を前に2時間弱それぞれの思いを語りました。会期中には何十年も前にお世話になったという人や、こんな作家がいたことを今まで知らず“発見”だったという人も訪れ、独自の色彩感覚とのびのびとした筆致で展開された作品世界を前に認識を新たにするいい機会になったと思います。

会期が終了し、東京都北区にはお借りした作品を無事にお返しすることが出来ました。また個人所蔵の油彩作品の内4点は名古屋巡回展にも展示することができました。この企画の実現にご協力いただいた皆さまに感謝いたします。（返町勝治）



第5室を使用している企画展示。陳列ケースには関連書籍を展示。



大野五郎

Ono Goro

1910～2006年



スケッチ旅の途上で（撮影地、撮影年不明）



会場内でのギャラリートーク。左から、返町勝治氏、佐藤善勇氏、水村喜一郎氏

アトリエ訪問 vol.15

『松本恵美さんのアトリエを訪問して』

東京都中野区

取材：有馬久二・桑原雄一
文・スケッチ：有馬久二



アトリエでの松本恵美さん



画／有馬久二

中野区弥生町、弥生土器が発見されてつけられた地名なのか、歴史の一端を垣間見る多少のドキドキ感で弥生町3丁目バス停を降りた。三階建て住居の一階がアトリエで東側窓からの採光で気持ちの良い空間です。入室して直ぐ左側の壁には制作途中、或いは完成作品の主に水性の小品がびっしりと掛けられていて圧倒される。右側のイーゼルには100号のキャンバスが置いてあり常に作品展に参画している作家の緊張感を感じる。

▶絵のテーマについてお伺いします。

植物樹木の生命力、春になり芽吹いてくるときの光と風そして緑の変化、以前に見た黒部川の水面のエメラルドグリーンの感動を制作しています。

▶画材について教えてください。

やはり大作は油彩、油彩のゆるく乾いていく時間の経過と、重ねていく色合いの深さが好きです。ここ数年、小さい作品は和紙に墨、カラーインク、顔料等で描いています。墨にもいろいろな色の変化があり、その変化に面白さを感じます。

▶絵を描き始めのきっかけは？

近所の絵画教室に通いはじめたのがきっかけです。

▶主体展にはいつから出品していますか？

21回展に初出品しました。女流展に出品していて、ほとんどの人が他の会にも出品していたので私は主体展を選びました。



▶好きな画家はいますか？

マークロスコとモランディが好きです。

▶制作時間は？

作品によっていろいろです。大作は2~3か月位、平行して他の小品なども描きます。描きだしてからしばらく時間を置くこともあります。

以上、訪問記終わります。当然ですが中野区弥生町、弥生土器歴史のかけらも感じませんでした。

ブータントレッキング

檀原 恵子(東京都)

山の美しさに魅せられて山に分け入る事ばかり考えてきた。山々に抱かれて過ごす山旅の何と幸せだった事か…。

多くの山の中で18年前のブータンチョモラリトレッキングは特に感慨深いものがある。

7月初旬パロの小さな空港に着くと日本の着物に似た「キラ」「ゴ」を着てガイドさんが待っていてくれた。段々畑、イネの緑と町並みパロの何と美しい事か！ 町では弓の試合をしたり歌ったり時間がゆったり流れている様子。

いよいよ3日目高度順化のためチュラ峠(3,800m)へ。ブルーピーの青い花々。峠には旗(タルチョ)が風にはためき、遠くにはヒマラヤの白い峰々、感無量のひととき。ブータンでは、人が亡くなると火葬し川に流すという。風に乗って祈りが届くよう峠や橋にお経の書いてある旗がたくさんかけてある。

翌日快晴の中パロの登山口から馬に荷物をつけてジャコタンキャンプ場に出発、田植の後の村々を過ぎていくと黒い毛の長い中型犬がついてきている事に気がつく。どうも登山口から一緒らしい。険しく厳しい山道も平気。全く吠えもせず愛嬌よく共に歩く。皆でタローと名付けてかわいがる。犬も立派な登山家だ。チベット仏教の輪廻の死生観で犬は人の前生の姿という事らしく大変大切にされている。犬も堂々と自分の人生を自分の足で生きている。それにしても可愛いすぎ! 途中、村の子供達とグズサンポーと挨拶をかわしながら歩く、皆恥ずかしがりやだけど人なつっこい。

翌日ジャコタンキャンプ場近くまで歩いていくと広々とした草原に白骨化した馬の骨がゴロゴロ。こんなに動物の骨が落ち

ているとは— そのまま持ち歩きテントでデッサン。またこの広い草原にはめずらしい高山植物がびっしり。厳しい気象条件の中凜として逞しく咲き誇っている。まるで天国に行く道の様だ。途中地面の穴の中にはリスを大きくした様なモーマツが顔を出している。タローがモーマツとじゃれている。氷河湖ツオブ湖のガレ場を過ぎると雨が降ってきたので放牧しているヤクの皮を張ったテントに避難させてもらう。お母さんと女の子にバター茶をごちそうになり心も体も暖たまる。次の日ポンチラ峠を越えタクンラ峠(4550m)へ、そこで3人の小学生位の姉妹を連れのおじいさんに出会う。川の橋が流されて渡れず、学校の寮まで何日もかけて送っていくとの事。(この頃すでに温暖化は始まっていた)荷物は傘とほんの小さなリュックのみ。通学路は何とトレッキングの道! その逞しさに脱帽。その夜はサクラ草が隙間なく咲いている湿原でテント泊、まるでウォーターベットだ。翌朝雨の中ジャクナゲのトンネルの道を1500m一気に降りる。下山するといつの間にか犬のタローの姿がない。さよならを知ってか別れの言葉もなく去って行ってしまった。淋しい。

思い返してみると18年前のブータンもすでに氷河が溶け温暖化が始まっていたのだ。今では、氷河湖が決壊し洪水で美しい村々も流されているとの事。この美しい地球をこれ以上人間の欲望で壊してはいけぬ。争いばかりして分断している場合ではない。何ができるのか? 「幸せの国ブータン」に行ってみよう。幸せとは何か考えさせられた山旅だった。



▲ツオブ湖近くのガレ場



▲空港があるパロ



▲小学生位の姉妹とおじいさん

ブータン王国 (Kingdom of Bhutan)
基礎データ

- 面積/約38,394km²(九州とほぼ同じ)
- 人口/約78.6万人(2023年:世銀資料)
- 首都/ティンブ(Thimphu)
- 民族/チベット系、東ブータン先住民、ネパール系等
- 言語/ゾンカ語(公用語)等
- 宗教/チベット系仏教、ヒンドゥー教等



各地の
美術館から

森田六男氏 遺作展

桑原 雄一(東京都)

会期／2025年12月18日[木]ー23日[火] 会場／コート・ギャラリー国立



▲オーディオルームも有ったという穂谷のアトリエ

ガラス張りのドアからギャラリーに入ると右手は打放しコンクリートの壁面で、その裏にはギャラリー1の広いスペースがある。ここ数年に描かれたという花たち、花壇に咲き乱れる花々を眺めるように配置された数多くの作品に圧倒される。リズムカルに踊る線にピンク、イエロー、オレンジ等に彩られたポピーや椿など、様々な花の絵、柿のような果実もあり楽しげな音楽を感じさせる。このような多くの花の作品があるとは、思いもよらなかった。更に通路を奥に進み、中庭を望める空間を抜けるとギャラリー2がある。ここには初期の主体展出品作から2023年「未完」までの大作が展示されていた。無骨さと対峙する繊細さを併せ持つ重量感のある画面は、驚きであり、とても新鮮で、抽象表現と具象との狭間で格闘する作家の姿を感じた。

高知県土佐清水市生まれ。自由美術協会退会後、第1回主体展に出品、会員となった森田さん、主体の集まりにはあまり顔を出していない。一人でペンキ職人をやっていたという。口コミで知った画家仲間からの依頼で仕事に出かけたこともあったとか。作業中にはクラシック音楽を流していたらしい。通りがかりの人からは変わったペンキ屋さんだと思われる位かもしれない。2024年4月に89歳で亡くなった。

これまでの主体展冊子に掲載されたご自身の言葉にふれ、少ない手がかりから改めてその創作の原点を探ってみた。森田さんの言葉「土、風化、身体、と炸裂する大地等を表現発想は抽象的なものであり、立ち表れてほしいものが、はっきりするまで、自分で納得いくまで、とりついて引き寄せ、形をさぐっていくしかない」(「主体美術」1982年号「作家はいま」)。森田さんを語る上で、音楽との関わりを外すことはできない。親友である神奈川の故・海道園夫さんの葬儀で流れた美しい曲がアルヴォ・ペ



▲数多くの花の作品が展示されたギャラリー1

ルトの曲であることも、すぐに分ったという。若い頃はお二人でよくクラシックを聴いていたとのこと。主体美術「作家の原点を探る」(1990年)「同居する音楽に」ではご自身の音楽との関わりを次の様に述べている。(以下抜粋)「…アトリエの奥に小さなオーディオルームなるものがある。アトリエの壁に音の通路の穴を造って、絵の場所からは、オーディオ機器はみえないが、音だけが聞こえてくるようにしてある、そこから聞こえてくる音楽に耳を傾けながら制作をする。…中略…絵も音楽も、私の独断と偏見に満ち満ちている。ドビュッシーやデーリアスの音楽を聞くと、素直にふるさとを思うのである。少年時代のもの憂い気分や四季折々の岬の表情など、大変都合良い解釈である。絵の一貫性や多様性は音楽にも同じく通じるものだと、私は思っているから。たとえば、現代音楽の「階段の上の小川」とか「鳥は星形の庭におりる」とか「幼な子たちの古しえの声」などからみられるように、題名は具体的にあるにもかかわらず、仕事は具体性から離れたところの根源的、直接的、内容である。自分の仕事も、その意味を表現しているので、同一のつながりだと思っている…」。

小さなオーディオルームなるものが気になった。アトリエの写真、手前側にその部屋があったらしい。そこには最高級のオーディオシステムがあり、バッハ、マーラーなどが流れていたのだと思う。アトリエはトトロの森(狭山丘陵)に隣接した埼玉県所沢市穂谷にあった。緑豊かで、茶畑、雑木林もある。東久留米のご自宅から片道3時間ほどかけ、毎日自転車で通われたそうだ。多くの花の作品は、ここ数年の間にその庭からうまれたという。

7年程前、北多摩の美術展のレセプションで、音楽やオーディオについて語らい、別れ際、「是非遊びにいらっしやい」と穂谷のアトリエにお誘い頂いた森田さんでしたが、それが最初で最後の会話でした。

遺作展の取材にご協力頂いた森田六男さんの娘さんである森田りと子さん、並びに情報提供頂いた榎本香菜子さんに深く感謝申し上げます。

前号での
お詫びと訂正

機関紙「主体美術」第116号におきまして、以下のとおり誤りがありました。

11ページ【各地の美術館から】「たいせつなもの」新収蔵作品展2015～2019の本文、左段8-9行目「蓮池に浮かぶように素晴らしい坂倉準三の建築、鎌倉別館は～」の部分、「鎌倉別館」ではなく「鎌倉館」の間違いでした。神奈川県立近代美術館様にはご迷惑をおかけしましたこと、訂正してお詫び申し上げます。

展覧会記録

2025年4月～2026年3月下旬

■**福田玲子**フレスコ画作品展
4月1日～4月30日
フォルム画廊(銀座6)
■**主体ちば作家展**
安藤豊個展**土川祐子**個展
5月5日～5月11日
船橋市民ギャラリー(船橋市)
■**AMAMI NASE & YOKOHAMA～奄美の風に想いを寄せて～**
(石田俊哉・續橋守・藤原アツ他)
5月13日～5月19日
アートスペースイワブチ(横浜西区)
■**第19回横浜美術協会会員・会友展**
(熱田和博・石田俊哉・井上雅仁・遠藤照美・續橋守・長崎羊子・長澤弘美・平田誠・藤原アツ他)
5月13日～5月18日
横浜市民ギャラリー(横浜西区)
■**第30回時のかたち展**
(結城智子・中嶋修他)
5月13日～5月19日
横浜赤レンガ倉庫1号館(横浜市中区)
■**<work1980>2025**柴田かよ子展
5月20日～5月25日
ノリタケの森ギャラリー(名古屋西区)
■**鵜あひの会展**
(高瀬美和子・檀原恵子・鳩貝悦子他)
5月26日～5月31日
ゆう画廊5F(銀座3)
■**山本靖久**水彩画展**一Nostalgia**
5月29日～6月7日
画廊AKIRA-ISA0(横浜市中区)
■**第36回ハマの作家展**(熱田和博・石田俊哉・平田誠・手塚國彦・長崎羊子他)
6月2日～6月8日
画廊楽1(横浜市中区)
■**アート'95展**(荒木篤子他)
6月2日～8日
たましんRISURUホール地階展示室
■**大口満**絵画展
6月3日～6月8日
ギャラリーヒルゲート(京都市中京区)
■**アートアート! 2025**
(永井美智子・前川アキ他)
前期:6月4日～6月15日
後期:6月18日～6月29日
HOKKAIDO ART GALLERY(札幌市)
■**二人展～金沢綾子・神保宏嗣～**
6月10日～6月14日
ギャラリー華(兵庫県西宮市)
■**齋藤典久**展
6月19日～6月25日
ギャラリー・コパンダール(京橋2)
■**土川祐子**展 **旅の途中**
6月23日～6月29日
銀座月光荘画室2(銀座8)
■**森のいざない** 山田加代子展
6月23日～6月28日
ゆう画廊(銀座3)
■**長崎羊子**展
6月23日～6月29日
ギャラリーミロ(横浜市中区)
■**11の指標展**(長沢晋一他)
6月24日～6月29日
中和ギャラリー(日本橋)
■**前川アキ**絵画展
一前進しながら遡る旅の続き～
6月25日～6月30日
カフェ北都館ギャラリー(札幌市西区)
■**開廊50周年記念水村喜一郎**展
生きて、旅して、絵を描いて…
6月26日～10月14日
池田20世紀美術館(静岡県伊東市)
■**キリスト教美術展**
(續橋守・山崎弘・細矢恵美子他)
6月27日～7月7日
早稲田スコットホールギャラリー(新宿区)

■**第36回豊田美術連盟展**(加藤嘉巳・草次千恵・田中和枝・塚田勉・塚本照子・森伊津子・山本弘子・水野博子他)
7月2日～7月6日
豊田市民文化会館(愛知県豊田市)
■**これってこわい?**(倉石隆・矢野利隆他)
7月5日～9月21日
小林古径記念美術館(新潟県上越市)
■**開廊35周年記念展【私の林檎】**
(井上樹里・小林宏至他)
7月7日～7月19日
高輪画廊(銀座8)
■**キリスト教絵画の現在展**(續橋守他)
7月10日～7月15日
教文館3Fギャラリーステラ(銀座4)
■**美術の明日へ向けて展**(込町勝治他)
7月14日～7月19日
ギャラリー暁(銀座6)
■**小菅光夫**展 **秩父 祭と地芝居**
8月2日～9月28日
山猫軒(埼玉県越生町)
■**青木繁【海の幸】オマーージュ**
(山本靖久他)
8月25日～8月30日
日本美術家連盟画廊(銀座3)
■**exhibition twice up! IX Part 1**
(北村奈美・久我英輔・新島知夏・前川アキ)
8月25日～8月31日
あかね画廊(銀座4)
■**第47回北海道口ビュ絵画展**
(齋藤典久・佐藤 善勇・續橋守他)
9月1日～9月10日
ギャラリー絵夢(新宿3)
■**種倉紀昭**絵画展
9月6日～11月30日
若手県久慈市待浜町麦生第3地割36-1
■**和田貴子**展
9月8日～9月13日
画廊宮坂(銀座7)
■**twice up! IX part2**
(上野信彦・大西佐頼・前山陽子)
9月8日～9月14日
あかね画廊(銀座4)
■**Hiroe & Yutaka**二人展
(喜々津宏恵・加賀吉豊)
9月15日～9月21日
銀座月光荘画室2(銀座8)
■**詩画展**(石田俊哉・續橋守・藤原アツ・結城智子他)
9月15日～9月21日
画廊楽II(横浜市中区)
■**二人展～この10年～**(見藤隆治・坂田嘉憲)
9月18日～9月23日
アートホール神戸(神戸市)
■**同星人 we live in the same planet.**
(種倉紀昭他)
10月1日～10月31日
花巻市東和町図書館(岩手県花巻市)
■**三人展**(小菅光夫他)
10月2日～11月3日
泰山堂café(埼玉県秩父市)
■**中野中企画<象の内>外>2025**
(長沢晋一他)
10月9日～10月19日
ギャラリー絵夢(新宿3)
■**第25回遠州横須賀街道ちっちゃな文化展**
(藤田俊哉他)
10月24日～10月26日
静岡県掛川市横須賀地区(清水邸)
■**山本靖久**展 **境界-Boundary**
10月25日～11月8日
四季彩舎(京橋2)
■**ヴェロン**會a上野松坂屋(井上樹里他)
10月29日～11月4日
松坂屋上野店7階美術画廊・アートスペース
■**原田文子**個展
10月30日～11月4日
すずきギャラリー・彩美(千葉県白井市)

■**草莽の風展**(松本恵美他)
11月3日～11月8日
K's Gallery(日本橋)
■**PARADE2025 -秋-**
(伊藤明美他)
11月4日～11月9日
ギャラリー名芳洞(名古屋市)
■**CAFネビュラ展**(長沢晋一他)
11月5日～11月16日
埼玉県立近代美術館(さいたま市)
■**戦争と子どもたち**
(寺田政明・吉井忠他)
11月8日～11月12日
板橋区立美術館(板橋区)
■**第39回公募・輪の輪展**(保坂淳他)
11月19日～11月24日
市川市文化会館(千葉県市川市)
■**TARO**個展
12月1日～12月7日
かうひいやカフアブナ(六本木7)
■**第64回神奈川女流美術家協会展**
(内田結美子・藤原アツ・森脇ヒデ他)
12月3日～12月8日
横浜市民ギャラリー(横浜西区)
■**ヴェロン**會2025(井上樹里他)
12月8日～12月20日
高輪画廊(銀座8)
■**afterimage 本間由佳×Johanna Baudou 2人展**(本間由佳他)
12月10日～12月22日
Gallery CHARLOTTE.USAGI(横浜市)
■**若部晴子**個展 **jFeliz Navidad!**
一遠き故郷からの便り～
12月12日～12月20日
相模屋美術店(銀座5)
■**Ange de Noël 20**(山本靖久他)
12月12日～12月26日
ギャラリー絵夢(新宿3)
■**第三回玄木会一中城芳裕と共に～**
12月15日～12月21日
あかね画廊(銀座4)
■**MORITA mutsuo Exhibition**
12月18日～12月23日
コートギャラリー国立(国立市)

2026年

■**第4回ひぐらし**展(有馬久二・込町勝治・水村喜一郎他)
1月6日～1月11日
銀座アートホール(銀座8)
■**佐野未知**展 **エボシ岩・3つの世界**
1月6日～1月18日
茅ヶ崎美術館(神奈川県茅ヶ崎市)
■**第14回現代茨城作家美術展**
(福田玲子他)
1月10日～2月1日
茨城県近代美術館(水戸市)
■**初春展**(長沢晋一他)
1月12日～1月17日
ギャラリーGK(銀座6)
■**新春アート2026**(落合梨乃他)
1月13日～1月18日
Gallery美庵(銀座8)
■**第16回run・way**(伊藤明美他)
1月13日～1月25日
ギャラリー名芳洞(名古屋市)
■**オノ・ミチヒロ**展
1月14日～1月18日
三重画廊(三重県津市)
■**加藤嘉巳**展
1月15日～1月18日
みよし市勤労文化会館(愛知県みよし市)
■**山本靖久**展 **豊かなる情景**
1月15日～1月28日
ShinQs Gallery5(渋谷区)

■**新春ガラス給協会**展
(井上樹里・山本靖久他)
1月19日～1月25日
ギャラリー絵夢(新宿区)
■**浅野修**展
1月20日～1月31日
K's Gallery(中央区日本橋)
■**神奈川県美術展60周年記念受賞作家展**(山本靖久他)
1月23日～1月31日
鎌倉芸術館ギャラリー(鎌倉市)
■**第10回M-art'79展**(山崎弘他)
1月26日～1月31日
画廊宮坂(銀座7)
■**第4回絵給展**
(齊藤望・山本靖久他)
1月26日～2月1日
あかね画廊(銀座4)
■**水村喜一郎** 油彩展
2月2日～2月8日
ギャラリー・コパンダール(京橋2)
■**結城智子・中嶋修**二人展
2月2日～2月8日
銀座アートホール(銀座8)
■**長沢晋一**展
2月2日～2月8日
あかね画廊(銀座1)
■**第60回記念「主体展」新会員展と会員小展**
2月5日～2月10日
ヒルトピア アートスクエア(新宿区)
■**黒白展**(TARO他)
2月9日～14日
gallery Kanon(日本橋)
■**PARADE2026 -春-**
(伊藤明美・伊藤吉一他)
2月10日～2月15日
ギャラリー名芳洞(名古屋市中区)
■**青羊会**(井上樹里他)
2月11日～2月19日
ギャラリー・コパンダール(京橋2)
■**主体京都作家展**(主体展会員及び出品者による有志グループ展)
2月17日～2月22日
京都府立文化芸術会館
■**兆し**展(伊藤陽夕・渡・比嘉理湖・宮本翔・森田美乃里・渡辺怜志)
2月23日～3月1日
あかね画廊(銀座4)
■**井上樹里** 視線のリトリート
2月26日～3月11日
ShinQs Gallery 5 渋谷ヒカリエ ShinQs 5F(渋谷2)
■**第58回主体美術神奈川作家展**
3月3日～3月9日
横浜市民ギャラリー2F(横浜西区)
■**FACE展2026**(伊藤陽夕他)
3月7日～3月29日
SOMPO美術館(西新宿1)
■**第16回輪展**(齋藤典久他)
3月9日～3月14日
K's Gallery(日本橋区松町4)
■**名芳洞感謝祭 -Muchas gracias-**
(伊藤明美・伊藤吉一・水谷幸子他)
3月10日～3月22日
ギャラリー名芳洞(名古屋市中区)
■**尾崎放哉の句から描く**(齋藤典久他)
3月23日～3月29日
ゆう画廊(銀座3)
■**【LUCE】展**(種倉紀昭他)
3月23日～3月28日
ギャラリー志門(銀座6)
■**第9回パローニア展**(最終回)
(種倉紀昭他)
3月24日～3月29日
埼玉県立近代美術館 地下第3展示場(さいたま市浦和区)

※ホームページに展覧会情報の掲載を希望される方は、DM担当の**小林宏至**さんまでお送りください。会員・出品者を問わず掲載いたします。その情報は事後掲載ですが機関紙のこのページ(展覧会記録)にも反映されます。

編集後記

■11月に聴いたマーラーのコンサートで、素晴らしい指揮をした喜古恵理香が多摩センターで、その3日後に立川で第九を振ることを知り、聴きに行った。いずれも期待以上の感動的な演奏。オケをのせるのが上手く、演奏後、奏者の満足げな笑顔が印象的。帰り道、母親に手を引かれた小さな女の子が「今日、一番頑張ったのは指揮者だと思っ」と感想を述べていた。
■名古屋展に初めて訪問した。ひとりで緊張しながら会場に着くと、懇親会でお話したことがある三浦さんのお顔が見えてほっと安心。受付の会員のみなさまが笑顔で迎えて下さり、会場を撮影させていただいた。愛知県美術館ギャラリーは壁が真っ白で、都美術館とはまた違う趣きの展示だった。巡回展報告の会場風景を見て、あの時の温かい気持ちがかきた。
■この数年で世界情勢がどんどん危うい流れになりつつあります。私が小さい時はベトナム戦争があり、沖縄から爆撃機が飛び立ちました。今また日本からイランに向けて米軍の駆逐艦が出撃しているといわれています。ふたたび新しい「戦前」になるのではないかと不安が拭いきれません。憲法は国民の人権を守るもの、国による権力の乱用を防ぐものです。今一度よく考えたいです。(山田礼二)

機関紙 「主体美術 117号」 制作スタッフ	■ 事務局作業 山崎 弘(責任者) 山田 礼二(機関紙) 桑原 雄一(機関紙) 山崎 清子(機関紙) 黒川 洋(会計)	■ 執筆 近町 勝治 有馬 久二 檀原 恵子 桑原 雄一	■ 校正 長沢 晋一 他 執筆者	■ 巻頭カット 山崎 清子 松本 恵美
2026年度 事務局体制	■ 責任者 ／山崎 弘 ■ 展覧会 ／吉田 正・大西佐頼 ■ 研究 ／井上樹里(ホームページ・SNS)・落合梨乃・前山陽子 ■ 広報 ／【図録・出版】金沢綾子・山田加代子 【機関紙】山田礼二・桑原雄一・山崎清子 【発送】坪井健一 【広告】長谷川好美 ◆ 巡回展 ／名古屋：三浦洋次			
2026年 第61回 主体展日程	本 展／東京都美術館(上野公園) 2026年9月1日(火)～9月17日(木)16日間(7日は休館) 公募搬入／2026年8月22日(土)・23日(日) 東京都美術館地下3階 名古屋展／愛知県美術館8F 2026年10月6日(火)～2026年10月12日(月・祝)			